



社会医療法人近森会

発行 ● 2011年5月31日

びろっば

6

Vol.299

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添晃

「救命救急センター」認可

公益性を最優先に

救命救急センター長 根岸 正敏



5月26日、県庁で行われた「救命救急センター」の指定書の交付式

救急こそ医療の原点
近森病院は昭和39年6月30日の救急告示病院指定以来、高知市内はもとより東は室戸地区、西は幡多地区まで、高知県全域から多くの救急患者さんを受け入れてきました。これは「医療の原点は救急である」「救急医療こそ、今この瞬間に人の命を救う最も必要とされる医療行為である」という近森病院の医療に対する基本理念からくるものです。

高度な急性期医療で危機を脱しても、寝たきりや植物状態では救急医療の完結とはいえません。いかに社会復帰していただくかを常に考え、全国に先駆けて、回復期リハビリの充実を図り、社会的な使命を果たしてきました。

近森病院 ER 救急センター

2002年に救急委員会が発足、当時日本の先駆けである北米型の近森病院ER救急センターとして生まれ変わりました。これは日本独自の一次、二次、三次といった病院側の基準、都合から患者さんを分類するのではなく、「いつでも、誰でも、どんな疾患でも」入口を広く、患者さんを受け入れ、緊急度、重症度から治療優先順位を判断し、適切な救急医療を提供するというものです。こうして当院の救急体制は徐々に整えられて、救急患者さんは年々増加し、現在では高知県内で最も多くの救急車の受け入れを行っています。

地域医療機関との連携

高知県初の地域医療支援病院としての指定も受け、地域の医療機関と密接な連携をとり、講演会や各種研究会などを通じて交流、知識の向上をはかり、地域中核病院としての役割を果たしてきました。また、救急隊との症例検討会の開催、気管挿管、薬剤投与実習の

受け入れや救急救命士への指示、助言などメディカルコントロール体制にも積極的に関わってきました。さらには心肺蘇生法の講習会なども定期的開催し、医療従事者の教育にも積極的に取り組んでいます。

災害医療においては南海地震を予想した高知県、高知市の災害訓練でも中心的役割を果たし、実際の災害ではスマトラ沖地震、ニュージーランド地震に国際救助隊として、また東日本大震災ではDMAT隊をはじめとする災害派遣を行ってきました。

このように全職員が救急医療を推進してきた実績が認められ、このたび高知県から「救命救急センター」に指定され、救命救急病床として18床が認可されました。

救命救急センターの使命

救命救急センターの使命は、原則として重傷および複数の診療科領域にわたるすべての重篤な救急患者さんを24時間体制で受け入れるものであり、
次頁へ続く

今月の言葉

「救急の近森」といわれて50年



近森 正幸

近森病院は昭和39年の救急告示病院の指定以前から、半世紀にわたって多くの救急患者の受け入れを行ってきました。とくに緊急に対応が必要な脳卒中や心筋梗塞、外傷の患者さんについては、高知県内で最も多くの救急患者を受け入れてまいりました。

今回、5月16日付をもって知事より「救命救急センター」の指定を受けることができ、深く感謝しております。このことは、昨年1月1日付でより公益性の高い社会医療法人としてス

タートすることになったこと。次に平成20年に救命救急センターに対する厚労省の方針が変更されたこと、これによって医療機能を絞り込んだ急性期病院でも救命救急センターとして認められるようになり、総合病院的な基幹病院がその地域の三次救急を一手に行うのではなく、数力所の救命救急センターが足りないところを補完し合いながら連携して救急医療に当たる時代になってきたこと。

更に高齢社会の到来と診療報酬の引き下げ、医師不足などにより、高知県全体の急性期の医療機能が低下し、実質的に高知市内の基幹病院に重症の救急患者が集中していることなど。

こうしたことが相まって今回の指定になったものと考えています。

今回「救命救急センター」に指定されたことで、当院の優秀でやる気のある先生方や多くのスタッフが、これまで以上に誇りを持って重症患者の救命救急医療に当れることを、たいへん嬉しく思っています。

理事長・ちかもり まさゆき

一面から続く

三次救急医療機関としての社会的役割を果たすことにあります。近森病院救命救急センターは他のセンターとも協力しつつ、以下のような理念、方針で運営を行ってまいります。

近森病院救命救急センターの理念

近森病院救命救急センターは、地域医療機関や消防機関との連携を通じ、第三次救急医療機関として全診療科が協力し、重症患者さんを受け入れ、社会復帰を全力で支援します。

基本方針

- 安全で高度な救命救急医療を通じて、患者さん中心の医療を実現します。
- 地域医療機関、消防機関との密な連携を実現します。
- 職員の継続的な教育を実践します。
- 医療活動を通じて社会貢献を実践します。

公益性を最優先に

三次医療機関として、高度の救急医療を提供することは当然ですが、近森病院の救急医療の原点である、「いつ

でも、誰でも、どんな疾患でも」の理念を忘れずに、地域医療機関と十分な連携をとりつつ、社会医療法人として公益性を最優先に責任ある運営を行っていきたくと考えています。このためには、救急ベッドの確保のために、症状が安定した患者さんには早期の退院、転院、比較的軽症の患者さんには、待ち時間などでご不便をおかけすることもあるかとは思いますが、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

ねぎし まさとし

ちょっと気になる話題の治療法 整形外科 4

MICRONAIL

(マイクロネイル法)

近森病院整形外科統括部長 衣笠 清人



橈骨遠位端骨折(手首の骨折です!)は骨脆弱性骨折の代表格として最近の高齢化に伴い、その発生数が激増しております。治療法も以前は保存療法すなわち徒手整復・ギプス固定が中心で、よほど重症なものだけが手術適応となり創外固定やKワイヤーによる経皮ピンニングなどが行われていました。

近年ロッキングプレートの出現に伴って掌側プレート固定法がその中心的治療法となってきました。しかし、この方法は必ずしも簡単ではなく、また屈筋腱損傷などの術後合併症も最近ではかなり報告されてきています。

当院ではもちろんプレート固定も行っていますが、低侵襲と早期社会復帰

をめざして症例を選んでマイクロネイル法という髄内釘による内固定法を採用しています。

本法は米国で考案された手術法で日本では2006年に第1例目が当院で行われました。以来、症例を重ね現在では300例を超えています。皮切は2.5~3cmと5mm×2カ所と極めて小さく、腫れと痛みの消退も速やかです。ほとんど入院も抜釘も必要なく、高齢者ではとくに有効な治療法になっています。転倒して手首が痛いときはすぐに整形外科を受診して下さい。

きぬがさ きよと

日本内科学会四国地方会を主催して

近森の組織力を実感

近森病院副院長/内科部長 浜重 直久



平成23年年5月8日、高知市文化プラザかるぼーとにおいて、第104回日本内科学会四国地方会の会長を務めさせていただきました。

本学会は「症例から学ぶ」という内科医の原点ともいえる学会ですが、通常は大学病院の教授が主催することが

多いなか、一民間病院で担当させていただきたいへん光栄に思っています。

今回は、91題の演題発表と、525名のご出席をいただき、活発な討論をしていただきました。また、川井和哉循環器科主任部長のお世話で専門医部会教育セミナー(症例検討会)を開催

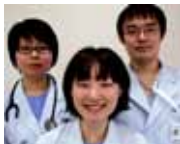
し、窪川渉一循環器科部長にはハンズオンセミナー(心音ことはじめ)を担当していただき、たいへん好評でした。

午後には、第44回四国支部主催生涯教育講演会として、自治医科大学附属病院島田和幸教授(高血圧)、長崎大学有吉紅也教授(肺炎)、京都大学千葉勉教授(消化器疾患と遺伝子異常)、神戸大学塩澤俊一教授(SLE)、高知大学瀬尾宏美教授(心肺蘇生)にご講演いただき、充実した会になりました。

不慣れななか、川井和哉部長、織田真由美内科秘書を中心に、各科秘書、総務課など近森会の多くの方にご協力をいただき、順調に会を運営することができました。地域医療講演会や公開県民講座などで培った近森会の組織力をあらためて実感いたしました。この場を借りてあらためてお礼申し上げます。はましげ なおひさ

6月の歳時記 ジャスミン

近森病院臨床工学部急性期CEチーム 田邊樹里/戸梶めぐみ/山中智弘



香水やお茶の原料として有名なジャスミンは、花はシンプルでも香りは強く、その香りにはリラックス効果や抗鬱作用などがあるとされています。

花言葉は「素直」。あちらこちらにつるをからませてすくすく伸びる様子を言い表したそうです。私達も先輩方のご指導の下、このジャスミンのように「素直」にすくすくと成長していきたいです。

絵・総務課 広報担当 公文幸子



サミティヴェート病院との人材交流

タイから実習生がきます！

医事課長代理 宗石 勘九郎

今年の夏、タイの首都バンコクにあるサミティヴェート病院から、日本語や日本の文化を学ぶために1カ月程度の予定で看護師、薬剤師が近森病院へ実習にくることとなり、在タイ王国日本国大使館の大使公邸にて覚書の調印式が行われました。

タイは観光にたいへん力を入れている国で、外国からの渡航者の多い国です。また、日本人駐在員が多いことでも知られています。こうした旅行者や外国人駐在員に対応する病院もいくつかあり、そのうち、タイで最も大きい病院の一つであるサミティヴェート病院は全患者の約20%が日本人であり、日本人患者に対応する専門の受付窓口や「さくらチーム」

とよばれる日本人に対応する専門のスタッフを育成し、日本人へのサービスの向上を図っている病院です。

短い期間ですが、積極的に交流することでお互いに実りある実習になればと思います。 むねいし かんくろう



上右がサミティヴェート病院院長、左が川添管理部長。下はタイ日本大使（前列右から三人目）同席のもと記念撮影。後列に和服姿の久保田看護部長（左）と筒井薬剤部長

看護部 **キラリと光る看護 part2**集団型連結ピン組織への
ギアチェンジ近森オルソリハビリテーション病院
看護部長 尾崎 貴美

4年目を迎える今年、この3年間を基盤として、更なる看護の質の向上のためのギアチェンジの年として、病棟管理体制の見直しと、一人ひとりの能力の底上げと顕現化のために何をしたら良いかを師長たちに提案しました。その回答が、申し送りの廃止と病棟の役割体制の見直しでした。

病棟体制の外見はこれまでのリーダー制とあまり変わりませんが、リーダーへの報告に個人差がある課題が明確となり、バックグラウンドで継続した

職員対象「統計セミナー」開催！

平成23年4月より医療統計の顧問として、高知県立大学看護学部助教井上正隆先生が来院されることになり、5月13日（金）18:00～19:00に第1回目のセミナーが開催されました。



今年度は月2回、第2第4金曜日に開催予定です。個別相談も行っておりますので、この機会にぜひご参加ください。※サイボウズの掲示板をご覧ください。お申し込み下さい。 総務課広報

グループ体制をつくり、各グループに管理的な視点にたった役割を委譲し、個々の能力の標準化と底上げをし、定期的にグループ同士で評価しあう仕組みとしました。準備期間を経て実施し約一カ月が経ち個々の意識はワンラン

ク高まりつつあるように感じます。

後で気がついたことですが、リカートは「集団で意思決定しそれを管理することによりオープンなコミュニケーションをとり、有機的につながることで成員の意思決定意欲が強まり組織への協働意欲が高まる」といっています。

少しの投げかけで、彼女たちは自然にそのことに気付く自らこの理論を導き出したところに大きな意義があると思います。これこそまさにセカンドギアへのチェンジではないかと、その成長と今後の可能性を垣間見て嬉しく思いました。 おさき きみ

私の趣味

日本舞踊

近森病院第二分院ストレスケア病棟
看護師 西村 節子

第二分院に異動になって十数年になりますが、その当時はクリスマス会や納涼祭などのイベントではスタッフが一芸を披露して盛り上げていました。

私にはこれといった芸がなく何かを身につけたいと思っていた時に先輩看護師が日本舞踊をやっていました。これなら私にもできそうと思い、紹介してもらったのが始まりです。意外と自分には合っていたのか止めずに続けています。稽古の時は非日常の世界に浸ることができ存分に楽しい時間を過ごせています。

最近では忘年会や送別会などで、和の世界の好きな松永看護部長や武



写真は送別会の一コマです。（向かって左から武田シニア師長、筆者、松永看護部長）

田シニア看護師長と共に一芸を披露することもあります。みんなで楽しく愉快地に場を盛り上げます。

にしむら せつこ

明日へつなげる 一枚一枚の進歩！

画像診断部診療放射線技師 田村 淳也



医療安全委員として数年が経ち、医療安全の奥の深さや広さに日々悩まされています。

画像診断部では、医療安全・機器管理・線管理の3部門に分けてグループ活動を行っています。医療安全での活動として手順書の見直しや整理、ヒヤリハット事例検討及び集計、MRI 確認書についての発表などを行ってきました。今年のグループ目標を「ヒヤリハット事例検討及び分析と対策」と定め、毎月部内でその内容を通信便りとして報告することにより、注意を促すことに決めました。ヒヤリハット報告は決

して個人を責めるものではないと言いつつ、少しずつではありますが報告の

重要性を認識してもらえるようになってきました。

これからもこの提出された一枚一枚をムダにしないように分析をして現場へフィードバックし、スタッフが安心して働けるように、そしてそれが安心して検査を受けてもらえることへつながるように、日々努力していきたいと思えます。

たむら じゅんや

「病気は回復過程である」上映会



近森会グループ統括看護部長
梶原 和歌

5月13日、第85回地域医療講演会としてナイチンゲール著『看護覚え書』を映画にした「病気は回復過程である」を新しい管理棟で鑑賞しました。執筆から150年、ナイチンゲール没後100年を記念して制作された作品です。

東日本大震災の惨状とクリミア戦争の摸写はオーバーラップし、ナイチンゲールの珠玉の言葉は、元NHKアナウンサー加賀美幸子さんの朗読の響き

で深く胸に迫ってきました。大先輩、川嶋みどりさんや料理研究家の辰巳芳子さん、聖路加国際病院福井次院長も登場されていました。

新管理棟の内覧も兼ねたこの会は院外看護関係者43名のご参加をいただき、ハード面に負けず、愛溢れるハートのある看護・介護をしようと思気込んでいる私たちの記念となりました。そして医療・看護に関係のなかった元岩波映画社（現 U.N.Limited）の今泉文子さんが、大切に温めて映画化して下さいったことに感謝しました。

かじはら わか

ストロークケアユニット で変わったこと



近森病院脳神経外科部長
高橋 潔

今年4月23日、長崎大学から林健太郎先生をお呼びして「ストロークケアユニットができて変わったこと」と題して高知中央医療圏脳卒中地域連携パスの会と共催で講演会を行いました。

医師、看護師以外にも多職種の参加があり、外部99名、院内76名の参加となりました。脳卒中は超急性期から多職種の介入する病棟で集学的な治療を行うことにより予後改善が得られるとされています。

当院ではすでにこれに近い状態ですが、来春から神経内科と脳神経外科共同でストロークケアユニットを正式に立ち上げたいと考えています。この病棟は常時3:1看護の配置でありICUとHCUの中間の人員配置となります。充実した看護ケアの実践なども可能となります。脳卒中発症から2週間をこの病棟で管理することでさらに、臨床成績・患者予後の向上につなげていきたいと考えています。

たかはし きよし



Chikamori ★ Kitchen 10

豚キムチ丼

今月は第10回のメニュー、豚キムチ丼をご紹介します。一食に丼ひとつだと、野菜が少なくなるのが気になりますが、この豚キムチ丼にはシャキシャキのキャベツがたっぷり入っています。丼ひとつで簡単に、野菜も摂れる優秀メニューです。カロリーが気になる方は、ご飯を減らしてキャベツを増やしてもOKです。

材料 (1人分)

ごはん	200g (丼1杯分)
豚スライス肉	70g
玉ねぎ	50g
キムチ	50g
サラダ油	大さじ1/2
キムチ鍋の素	大さじ1/2
塩・こしょう	適量
キャベツ	50g

作り方 キャベツは千切りにし、水にさらしてあげておく（水にさらすことでキャベツがシャキシャキになります）。玉葱は小さめのくし型に切る。

臨床栄養部管理栄養士
主任 内山 里美



第10回のメニューより「豚キムチ丼」

フライパンに油をひき、豚肉を炒める。十分に火が通ったら玉葱を入れて炒める。

軽く塩コショウをしたら、キムチを汁ごとに入れて炒める。

最後にキムチ鍋の素をいれさつと炒める。

丼にご飯をついで、キャベツをのせ、上に炒めた豚キムチをのせて完成！

うちやま さとみ

韓国ソウルでの国際学会に参加して次の2演題の症例報告を発表しました。

「A case of acute myocardial infarction due to a focal acute aortic root dissection involving the left main coronary artery」(山本)

「Gelfoam Embolization of a Distal Coronary Artery Wire Perforation」(荒井)

近森病院循環器科科長 山本 哲史
荒井 梯子



大阪時代の後輩たちと。「Best Case Award」受賞の賞状を持つ山本科長。右から二人目が荒井梯子医師

本学会では症例報告は「Case competition」となっており、1セッション3～5演題のなかから座長とパネリストの採点で「Best Case Award」が選ばれます。

まずは27日に荒井がコンペに臨みました。海外留学経験を活かし、非常に流暢な英語での発表、質疑応答をこなしました。聴衆は比較的淡白な先生方が多く、あまり活発な討議はおこなわれず、荒井にとってはやや物足りない発表となりました。残念ながらawardに選出はされませんでした。

翌28日に山本がコンペに臨みました。荒井とは異なり、英語が堪能とは言えない山本は発表を必死で何とか乗り切ったというのが正直な印象でした。また、前日の荒井のセッションとは異なり、非常に熱いセッションで、各演題ごとに激しい質疑応答が繰り返されました。山本の演題の後でも演者そっこのけでの激しい討論が行われていました。十分に質疑応答に対応できたとはいいがたく、荒井とは逆の意味で山本にとっては残念な結果でした。しかし、症例が非常に興味深い症例であったことから、稚拙な発表であったにも関わらず、awardを頂くことができました。

荒井は以前から国際学会に参加する重要性を認識し、いくつかの学会にも参加してきましたが、今回の学会では国際学会で発表することの意義や充実感を実感しました。山本はそれのみな

らず、やはり英会話能力の重要性を再認識しました。

近森病院は県内でも有数の症例数を誇る施設であり、多くのまれな、興味深い症例を経験します。これらを国内外で報告するのも我々の重要な仕事であると考えます。また、症例報告だけでなく、積み重ねた経験の数々を十分に解析、検討し、clinical research dataとしてまとめ、報告することも重要と考えます。これからも、日々の臨床に一心に励むとともに、広く海外にも目を向け研鑽を積み、近森

病院発の臨床成果を海外に発信したいと思えます。

最後になりましたが、一緒に写真に写っているのは山本が大阪にいた頃に共に働いていた後輩達です。その頃は、彼らと夜な夜なお酒を飲みながら、カテテル談義をしたり、研究の話をしたり……、熱い夜を過ごしていました。(もちろん、大半はたわいない話ですが……) ソウルでは荒井も加えて久しぶりに熱いソウルフル・ナイトを楽しんできました。そして現在、細田、古川、今村、古谷、今井ら近森病院の若い後輩達とも、熱い夜を共にしています。今度は彼らとも海外学会で発表し、現地でおいしいお酒を飲み、また皆さんに報告したいと思えます。

やまもと さとし/あらい ていこ

よき友くすし

13

～低血糖についてご存じですか～



近森病院薬剤部 山村 伸枝

低血糖症状と血糖値のめやす

70	空腹感、あくび、悪心
50	無気力、倦怠感
40	冷や汗、動悸、ふるえ、顔面蒼白、紅潮
30	意識消失、異常行動
20	けいれん、昏睡
10	

血糖値 (mg/dl)

糖尿病治療には食事の改善、運動、薬物療法(飲み薬、インスリン注射)があります。薬物療法を行っている場合には“低血糖”という血液中のブドウ糖が低くなりすぎた状態が起こる事があります。

低血糖はどんなときに起こるの？

食事の量が少ない、食事が遅れた時、空腹時に運動した時、飲み薬やインスリンの量を間違えた時、お酒を飲みすぎた時など。

アルコールは肝臓のブドウ糖を作る働きを抑えるため、低血糖を引き起こします。飲酒後にごはんや麺類

を食べなくなるのも、このためです。

低血糖とはどんな症状？

空腹感、あくび、脱力感、眠気、吐き気、冷や汗、手足のふるえ、動悸、けいれん、昏睡など。

低血糖が起こってしまったら？

すぐに10～15gの糖分をとりましょう。10～15分たっても改善しない時は、再度同じ量の糖分をとってください。(10g目安:角砂糖2個、ジュース1/2本)

ただし、糖分の吸収を遅らせる薬を服用している場合は、あめ玉、氷砂糖では吸収に時間がかかるので、砂糖よりも吸収が早いブドウ糖を摂りましょう。

低血糖は危険な状態ですので、適切に対応することが大切です。出かける際には、糖分が入っているものやブドウ糖を携帯するようにしましょう。

やまむら のぶえ

ハッスル研修医

「生きてよかった」と
感じてもらえる医療を

初期研修医 徳重 秀将

こんにちは、研修医一年目の徳重秀将です。近森病院に無事就職できたことをうれしく思います。桜が満開の小川町公園で集合写真を大勢の新入職員の皆さんと撮影したことは鮮明に今でも心に残っています。

私がこれからも大切にしていきたいと考えていることは患者さんに「ああ生きてよかったなあ」と感じていただけるような医療をしていくことです。患者さんには常に一期一会のところで思いやりが先に立つように接していこうと思っています。平静の心を常に忘れずにいようと。

この同期の研修医8名で二年後また笑顔で修了式を迎えていけるように、これからもみんなできざまなことを乗り越えて行きたいです。そして一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。まだスタートラインに立ったばかりだ、ハッスル！ハッスル！ とくしげ ひでまさ



近森の充実感のある楽しさ

初期研修医 伊達 慶一

現在麻酔科でハッスルしています、宗石勘九郎、じゃなくて伊達慶一です。楠目先生方指導の下、麻酔の精進に励んでいます。右も左もわからず、三方活栓の使い方もわからず、エフェドリンがなにか知らないまま臨んでしまった自分ですが、なんとかその場にも迷惑にならない程度になりつつあると思います、おそらく。

まだ2カ月も経っていませんが、近森病院は働いていて楽しい！と思えました。それは楽ではなく、やりがいや充実感という意味の楽しさです。毎日が勉強になり、自分の血肉となっています。みなさんが職種に関係なく、本当に丁寧に教えてくださるので、とてもありがたいです。

初期研修2年間は、10年後に「ひろっぱ」を見返した時に「研修時代はハッスルしたなあ」と思い返せる研修にしたい。みなさんとどんどん仲良くなって、いろいろと教えていただきたいので、見かけたら話しかけてもらえるとうれしいです。

だて けいいち

● 東日本大震災における近森病院医療支援チーム報告会 ●

東日本大震災における近森病院の医療支援チームとしてのご活躍お疲れ様でした。皆様のご活躍に対して、職員一同敬意を表します。

お疲れも取れぬまま、日常業務に精励されておられることと思います。皆様今回の貴重な活動や体験は近森病院が災害拠点病院として、また救命救急センターとしての責務を果たすための基盤整備の一助になると考えます。



報告会の席上挨拶をする近森病院副院長北村龍彦

東日本大震災に対する災害医療支援として派遣された、DMAT、JMATのスタッフの報告会が4月25日、管理棟大会議室にて開催されました。

参加者 152名(院内130、院外22)

DMAT(災害派遣医療チーム)1チーム

JMAT(日本医師会災害医療チーム)3チーム



お知らせ

● 第86回地域医療講演会 ●

平成23年8月15日(月)

17:30~19:00

於：近森病院管理棟3階大会議室

「糖尿病とともに生きる患者さんを支援する～自分らしく生きることを支えよう～」

講師 日本赤十字看護大学看護実践・

教育・研究フロンティアセンター

認定看護師教育課程

糖尿病看護コース専任教員

青木美智子先生

	医師① 医師②	看護師① 看護師②	調整員(事務)
DMAT	井原則之 西本陽史	村田美和 —	宗石勘九郎 竹崎 智博
JMAT ①	近森正康 —	榎尾幸聖 岡林正博	宗石勘九郎 竹崎 智博
JMAT ②	根岸正敏 —	上総啓司 東 誠也	宗石勘九郎 奥田 興司
JMAT ③	山本 彰 —	松田陽平 徳留裕也	五藤 大策 楠瀬 達也

数字でみる近森会グループ2010年度の実績

2010.4~2011.3

【近森会グループ全体】

職員数

1,500人

委託を含む実質的な職員規模は約1,784人となり、多くのスタッフでチーム医療を展開し、日々、患者さんをサポートしています。

【近森病院】

救急車搬入件数

4,816件

院内救急車出動件数 113件
ドクターカー出動件数 42件

【近森病院】

手術件数

4,867件

急性期医療に取り組む近森病院では、一刻を争う患者さんが多く、日曜、祝日関係なく、一日あたり約13件の手術数です。

【近森病院】

延べ外来患者数

135,558人

地域医療支援病院として地域に密着した医療を展開しています。

外来患者さんは1日平均(平日)400人を超えます。

【近森病院】

延べ入院患者数

120,679人

急性期病院として一般病床338床を確保しています。

常時入院中の患者さんは、平均で330人になります。

【近森病院】

退院患者数

7,475人

近森病院に入院されている患者さんの平均的な入院日数は、15日~16日。

【近森病院第二分院】

うつ病の復職、再就職率

67.7%

(「パティオ」
退所者93名中63名)
平均在院日数99日
平均入院数94人
外来患者数158人
メンタルクリニックデイケア
1日平均利用者数45人

【近森リハビリテーション病院】

在宅復帰率

78.3%

退院患者数 601名
重症患者割合 34.1%
(日常生活機能評価10点以上)

【近森オルソリハビリテーション病院】

病床稼働率

95.9%

在宅復帰率
(施設基準による)
亜急性期病床 72.4%
回復期病床 81.2%
※急性期は在院日数60日を超えての在宅復帰者は除外。

病巣そのものに向き合う画像診断の魅力

近森病院放射線科立ち上げに参画

福島第一原発の事故以来、「放射線」はすっかり警戒対象になってしまったが、放射線を使った画像診断とガン治療の医学に果たす役割の大きさについては、否定する人は居ないだろう。

森田部長が新設された高知医科大学の放射線科立ち上げのために、都内の病院を辞め高知に帰ってきたのは昭和57年だった。大学病院でガンの診断と治療に5年半携わったのち、今度は近森病院放射線科設立に際し協力をと声がかかった。

24年間ずっと！の幸せ者

当時まだ珍しかった救急疾患の画像診断と、IVR（インターベンショナルラジオロジー＝X線透視や超音波像、CTを見ながら体内に細い管を入れて切らずに治す患者負担の少ない新しい治療法）を駆使して、「救急疾患の低侵襲的治療を研究、推進したい！」と、勇んで近森に就職、森田部長は以来24年間ずっと「その魅力に取り憑かれて現在に至る幸せ者」だと、この境遇にいたく満足気である。

力仕事より頭で勝負したかった！

祖父が村長をしていた須崎の浦ノ内村（当時）で立目ポンカン農家の長男として生まれ育ったが、「力仕事より頭で勝負したかったから」と、顔を真っ赤に照れながら、土佐中高校、東京医科大学歯科大学へと進んだ経緯を話してくれた。田舎には珍しい第一高女出身のインテリだった大好きなおばあちゃんが、中学3年のときから寝たきりになり、家族介護を数年経験する。厳しくて本もよく読むおばあちゃんの姿を目の当たりにしたことが、「力仕事より頭^{まさる}へと賢少年を強く駆り立てたのだろう。

病巣そのものに向き合う仕事への適性

研修医で内科を選んだのは、「医学全般を知る近道」だと判断したからだったが、その2年間で「患者さんやご家族と濃密につきあうより、病巣そのものを見つける側に回った方が自分には

向いている」と感じたのだった。確かに、人懐っこそうに優しげで、しかも恥ずかしがり屋の森田部長には、撮影画像を凝視する姿の方がいかにも似つかわしそうだ。

内科研修医のあと、当時、都内の病院で唯一CTが2台入っていて、診断と治療と核医学の三人の専門の教授がおられた帝京大学放射線科に進む。切らずに治す血管内治療を先駆的に行なう診療部門で研鑽を積んだのが、今日までの大きな流れにつながった。



放射線科読影室で画像診断の相談にのる森田賢部長と消化器外科の北川尚史（ひさふみ）部長

病院の司令塔の立場を担う責任

理事長がいつも強調する無駄な検査や治療をできるだけ行わないこと。これは、放射線科にとってもむしろ言うまでもないことだが、森田部長は加えて「画像診断は病院の司令塔の立場を担う責任がある」と、力をこめる。百人を超える医師をまとめる医局長を務める森田部長ならばこそその決意でもあるのだろう。

二代目の風ちゃんに癒される

さて、近森会スタッフのオンとオフの使い分けは、この面でも再三書いているが、森田部長の場合もやはり、オンとオフの使い分けに気をつけていて、休めるときにはしっかり休みたいと思っている。その際の大事な相棒がトイプードルで、ただいま二代目の風ちゃんである。ウイークデーは30分、休日には朝夕時間をかけて散歩する。

趣味はジャズの雰囲気は憧れて

もうひとつの趣味はジャズで、北本



「女房の次の権力者(笑)」である二代目風ちゃんと休日のお散歩。何をしてもどんな仕事もかわいらしい。見ているだけで癒される

町四丁目にアルテックが出来た高校生の下宿時代から足しげく通っていたし、大学時代に帰郷してもアルテックに寄るためにわざわざ高知駅で降りるほど好きだった。

ご自身は50歳で禁煙してからはいっさい吸わないけれど、例えばタバコの煙が立ちこめるような薄暗いフロアで、渋い珈琲を呑みながら独り静かにジャズを聴く、「そういうのって何かカッコいいでしょ！そういうのに憧れたんよ～(笑)」と、森田部長はやっぱりちょっと照れている。



ジャンプ！！

近森リハビリテーション病院 受付 大下 香里



1月に牧野植物園で結婚式の前撮りをしました。最初は二人とも緊張と恥ずかしさでガチガチでしたが、撮影をしているうちにだんだんと楽しくなりました。

テンションのあがった二人はカメラマンに「ジャンプするので撮ってください！」とお願いしました。しかし、ドレスが意外に重く何度かジャンプしましたがなかなか跳べませんでした。カメラマンに「これで最後。新婦さん頑張ってください！！」と励まされ、最後に思っきりジャンプした一枚です。

おおした かおり

前田メディカルクリニック

781-4212 香北町美良布 1516-3
☎ 0887-57-3811 Fax59-2003

外科・内科・小児科・整形外科・形成外科・リハビリテーション科

http://www.maeda-mc.com/ 195号線沿い、アンパンマンミュージアムの西およそ800メートル



院長：前田 敬文（よしふみ）
●昭和27年3月10日、高知県出身。趣味：芸術全般（とにかく幅広い。絵を描いたり木工や料理、写真 etc）、オールドカー



退屈させない待合室

趣味を極める部屋



●オールマイティーな要望に応えるべく、診療時間枠の拡大、手術室完備など、地域に役立つ医療をと心がけています。対応しきれないときは近森病院にもお世話になっています。健康で美しくをモットーにアンチエイジング医療も始めています。

	診療時間	月	火	水	木	金	土	日
早朝	6時半~8時		●		●			
午前	9時~12時半	●	●	●	●	●	●	
午後	15時~17時	●	●	●		●		
夜間	18時半~20時	●		●		●		
救急	全日	●	●	●	●	●	●	●



クリニック探訪

JR 四国バス 大堀谷停留所



図書室便り (2011年3月受入分)

- ・ミス・事故をなくす医療現場の5S — もの5Sから業務の5Sまで / 高原昭男 (他著)
- ・だから訪問看護はやめられない / 訪問看護の魅力、全部教えちゃいます！ / 宮崎和加子 (編集)
- ・在宅での看取りのケア / 家族支援を中心に / 宮崎和加子 (編集)
- ・介護保険・医療保険 / 訪問看護業務の手引平成22年4月版 / 社会保険研究所 (編集)
- ・診療点数早見表 [医科] 2010年4月診療報酬改定準拠 2010年4月版 / 医学通信社 (編集)
- ・第41回日本看護学会論文集 / 看護教育・成人看護Ⅱ / 日本看護協会看護研修学校 (編集)
- 《寄贈本》
- ・画像検査診断用語事典サイン・画像所見・症候群・検査用語 / 吉田祥二 (他監修)
- ・今日の治療指針 / 私はこう治療している Vol.51/2009 / 山口徹 (他総編集)
- ・鬼手仏心〜21世紀の医療・福祉のリーダーシップ論 / 山田實紘
- 《別冊・増刊号》
- ・別冊医学のあゆみ / 気管支喘息 Update / 玉置淳 (編集)
- ・別冊医学のあゆみ / インクレチンのすべて—一瞬β細胞研究からあらたな糖尿病治療へ / 稲垣暢也 (編集)
- ・別冊 NHK きょうの健康 / 動脈硬化を防ぐ！かんたん健康料理あぶらも塩もおいしく減らす / 森野真由美 (監修・料理)
- ・老年精神医学雑誌 Vol.22 増刊号 I アルツハイマー型認知症の諸問題を再考する / 斎藤正彦 (他編集)
- ・臨床麻酔 35 巻臨時増刊号臨床麻酔誌上セミナー '11 / 鈴木利保 (他著)
- ・関節外科基礎と臨床 Vol.30/4 増刊号 研修医が知っておきたいスポーツ整形外科入門 / 別府諸兄 (編集)
- 《視聴覚資料》
- ・山内豊明教授のフィジカルアセスメント 1 巻総論・問診・視診のポイント、2 巻触診・打診・聴診のポイント、3 巻呼吸器のアセスメントその 1、4 巻呼吸器のアセスメントその 2 / 山内豊明 (監修・指導)
- ・Expert Nurse 2011 年 4 月号 特別付録 CD-ROM 新ガイドライン準拠！動画でわかる心肺蘇生 / 三上剛人 (監修)

2011年4月の診療数 企画情報室

近森会グループ

外来患者数	17,841 人
新入院患者数	791 人
退院患者数	829 人

近森病院

平均在院日数	14.49 日
地域医療支援病院紹介率	86.98 %
救急車搬入件数	436 件
うち入院件数	226 件
手術件数	426 件
うち手術室実施	277 件
→うち全身麻酔件数	166 件

●平成23年4月度県外出張件数 30件 延べ人数 63人

編集室通信

毎年5月連休明けから近所の川沿いにオレンジ色の花が明るく元気にたくさん咲きはじめる。調べてみるとオオキンケイギクといって、もともとは日本に観賞用として入ってきたが、今は在来の植物に悪影響を与えるということで特定外来生物に指定されているとのこと。前々から気になっていた花だけに印象深い調べものになった。(ツツジ)